

2008(平成20)年度「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」採択取組

# 教育の質を保証する教員職能開発と大学連携

～大学間連携を通じた実践的FDプログラムの開発ならびに  
大学教員に求められる教育力量と職能の開発～

## 中間報告会

2008(平成20)年度「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」に採択された取組である「教育の質を保証する教員職能開発と大学連携～大学間連携を通じた実践的FDプログラムの開発ならびに大学教員に求められる教育力量と職能の開発～」の中間報告会を開催致します。なお、本報告会は日本教育情報学会第25回年会の場をお借りし、教育GP取組の進捗をご紹介しますのみならず、初等中等教育から高等教育までを俯瞰した、21世紀の教育改革の行方を探るための様々な研究、実践の発表の場といたします。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

立命館大学 教育開発推進機構

期 日：2009年8月22日(土)・23日(日)

※ 18:00～懇親会を行ないます。

会 場：立命館大学 朱雀キャンパス

所在地 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

交 通 JR・地下鉄二条駅 徒歩2分

阪急大宮駅 徒歩10分

JR京都駅 A-3のりば 市バス【206】に乗車

「千本三条・朱雀立命館前」下車 大学前

[http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap\\_suzaku\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_suzaku_j.html)

事 務 局：立命館大学 教育開発推進機構

Tel:075-465-8304/Fax:075-465-8318

E-mail: [fd71cer@st.ritsumei.ac.jp](mailto:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp)

参考URL：立命館大学教育開発推進機構 <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/index.html>

全国私立大学FD連携フォーラムホームページ <http://www.fd-forum.org/>

日本教育情報学会第25回年会ホームページ <http://www.kenkyu-jsei.com/nenkai25/>

※日本教育情報学会第25回年会プログラムのうち、本報告会は8月22日(土)に開催する「基調講演」、「パネル討論」、「ミニシンポジウム」に該当します。22日(土)および23日(日)に開催される「課題研究」、「一般研究」は、日本教育情報学会第25回年会のみのプログラムになりますが、こちらでも数多くの高等教育に関する研究、実践の報告が行われますので、是非ご参加ください。

## 目 程

8月22日(土) 1日目		8月23日(日) 2日目		
9:30~	受付開始	9:30~	受付開始	
10:30~ 12:00	基調講演 「21世紀の教育改革の行方を探る」 結城章夫 (山形大学学長)	10:00~ 12:00	課題研究6: 教員評価と学校評価 課題研究7: デジタル・アーカイブ 一般研究1: 情報機器の活用 一般研究2: カリキュラム開発と効果測定 一般研究3: 大学でのICT活用	
12:00~ 13:00	昼食・休憩 (理事会・評議員会) ※実践的FDプログラム体験 (ホール、多目的室)		12:00~ 13:40	昼食・休憩 ※実践的FDプログラム体験 (多目的室)
13:00~ 14:00	総会・学会賞表彰式			13:00~
14:00~ 15:30	パネル討論 テーマ: 「教育と研究の両立を目指すFD」 コーディネータ: 江原武一 (立命館大学) パネリスト: 結城章夫 (山形大学学長) 川口清史 (立命館大学学長) 後藤忠彦 (岐阜女子大学学長・ 日本教育情報学会会長)		13:40~ 15:40	課題研究8: 教員免許更新制 課題研究9-1: 特別支援教育(1) 一般研究4: デジタル・アーカイブの制作と 利用(1) 一般研究5: 高等教育改革 一般研究6: 学生参画型授業の実践
15:45~ 17:45	ミニシンポジウム シンポジウムⅠ: FDの組織化と評価 シンポジウムⅡ: 実践的FDプログラムの開 発と大学連携 シンポジウムⅢ: 学生調査とIR シンポジウムⅣ: これからのSDの方向性	15:45~ 17:30		課題研究9-2: 特別支援教育(2) 一般研究7: デジタル・アーカイブの制作と 利用(2) 一般研究8: 高校での授業実践 一般研究9: 情報教育と情報モラル
	セクション1 課題研究1: 著作権の動向 課題研究2: 学習支援環境 (e-learning, blended学習) 課題研究3: 学生参画型授業開発 課題研究4: 革新的な初等・中等教育の実践 課題研究5: 教員評価			
	18:00~		懇親会 (7階 レストラン「たわわ」)	

## 発表会場のご案内

日付	時間	5F ホール	202 教室	203 教室	205 教室	301 教室	303 教室	304 教室	307 教室	308 教室
22日(土)	10:00 ~12:00	基調講演								
	13:00 ~14:00	総会								
	14:00 ~15:30	パネル 討論会								
	15:45 ~17:45	ミニシンポ Ⅱ	ミニシンポ Ⅰ	ミニシンポ Ⅲ	ミニシンポ Ⅳ	課題研究 2	課題研究 1	課題研究 3	課題研究 5	課題研究 4
23日(日)	10:00 ~12:00		一般研究 3		一般研究 2	課題研究 7			課題研究 6	一般研究 1
	13:00 ~13:30				研究会 4	研究会 2			研究会 1	研究会 3
	13:40 ~15:40		一般研究 6		一般研究 5	課題研究 8			課題研究 9-1	一般研究 4
	15:45 ~17:30				一般研究 9	一般研究 7			課題研究 9-2	一般研究 8

## ● 基調講演

## ● 「21世紀の教育改革の行方を探る」

結城章夫（山形大学 学長）

## ● パネル討論

## ● テーマ：「教育と研究の両立を目指すFD」

コーディネータ：江原 武一（立命館大学教育開発推進機構）

パネリスト：結城章夫（山形大学学長）、川口清史（立命館大学学長）、

後藤忠彦（岐阜女子大学学長・日本教育情報学会会長）

【趣旨】 カーネギー大学教授職国際調査・日本版によると、四年制大学の大学教員は、全体として研究志向が若干減少したものの、依然研究志向が強く、私立一般大学でも半数を超えている。しかしその一方で、高等教育が急速に大衆化し1960年代以降の約50年間に、大学は大学教員中心の研究重視型から学生中心の教育重視型へ大きく変わり、大学教員の役割として学生の教育はますます重要になった。今求められているのは教育か研究かと言う二律背反の議論ではなく、どちらも大学教員の役割として重要な教育と研究のバランスをどう図るかであり、FDはそれをどう支援するかが問われていると言ってよい。教職協働や学生参画、ピア・サポーターやICTなどの活用を通して、教育と研究の両立を目指すFDをどう設計するか、パネリストとともに考えたい。

## ● ミニシンポジウム

## ● シンポジウムⅠ：テーマ「FDの組織化と評価」

22日(土) 15:45～17:45 (202教室)

コーディネータ：沖 裕貴（立命館大学）

シンポジスト：佐藤浩章（愛媛大学）、岩部浩三（山口大学）、宮浦 崇（立命館大学）

【趣旨】 FDは大学設置基準等で「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」と定義されている。FDは各大学の条件を踏まえた固有の取組であり、その実践はすべて個別の文脈に沿って理解し、評価されなければならない。しかし、各大学で切磋琢磨する「組織化」に至る活動は、決して固有性のみが強調されることはなく、共有や汎用につながるアイデアを隠し持つことが少なくない。本ミニシンポジウムでは、FDの組織化の方策について、教育コーディネータ制度による画期的なFD組織化を実現した愛媛大学と、カリキュラム・マップを用いた実質的なFD組織化を創造した山口大学の事例から学ぶとともに、FDの評価を、教学組織がどう変容したかという質的評価で検証を試みる立命館大学の事例をもとに考えたい。

## ● シンポジウムⅡ：テーマ「実践的FDプログラムの開発と大学連携」

22日(土) 15:45～17:45 (ホール)

コーディネータ：林 徳治（立命館大学）

シンポジスト：池田勝彦（関西大学）、小川 勤（山口大学）、福井正康（福山平成大学）、

井上史子（立命館大学）

【趣旨】 大学では、国立・私立、学生規模を問わず、困難な教育条件（クラス規模の大きさ、教員の持ちコマの多さ、学生の学力・学習意欲の多様性など）の克服を目指し、授業改善について様々な取り組みが行わ

れている。本セッションでは、大学で取り組んでいるFD活動についての事例を紹介して、今後の取り組みの方向性や大学間連携の在り方について議論したい。

### ●シンポジウムⅢ：テーマ「学生調査とIR」

22日(土) 15:45～17:45 (203教室)

コーディネータ：鳥居 朋子 (立命館大学)

シンポジスト：山田礼子 (同志社大学)、難波輝吉 (名城大学)、野田文香 (立命館大学)

**【趣旨】** 今日、学士課程教育の質的向上や「学士力」の内容をめぐる議論を背景に、学生の学習成果や授業の満足度等に関する調査に基づき、教育改善をはかる取り組みが注目されている。そうした文脈において、とりわけ学生の学びに関する情報・データの重要性とともに、それらの情報・データを実効性の高い教育改善にどのように活用していくかが問われている。まさに高等教育マネジメントの観点から、いわゆる教学領域のIR (インスティテューショナル・リサーチ) としての学生調査の有効性を検討する課題である。そこで、本ミニシンポジウムでは、国内外の大学における教学領域のIRに関する実践研究の知見を手がかりに、学生調査という側面から日本の大学におけるIRの問題点と課題を追究してみたい。

### ●シンポジウムⅣ：テーマ「これからのStaff Development (SD) の方向性」

22日(土) 15:45～17:45 (205教室)

コーディネータ：浅野 昭人 (立命館大学)

シンポジスト：樋口浩朗 (山形大)、八重樫文 (立命館大学)、田川千尋 (バリ第十大学)、  
金剛理恵 (立命館大学)

**【趣旨】** 昨年末に出された「学士課程教育の構築に向けて (中教審答申)」では、「大学院等で専門的教育を受けた職員が相当程度いることが、職員と教員とが協働して実りある大学改革を実行するうえで必要条件になってくる」と述べている。しかし、今日、教育現場で求められている「インスティテューショナル・リサーチャー」や、「インストラクショナル・デザイナー」、「研究コーディネータ」、「学生生活支援ソーシャルワーカー」などは、既成の職員が担ってきた業務領域や、業務力量を超える専門性が求められるものであり、教員でもなく、職員でもない中間領域的な職種の可能性を示している。そこで、本ミニシンポジウムでは、これからの職員像とその職能開発を、両シンポジストが歩んできた経歴を手がかりに、あえて教員と職員の違いにこだわって議論してみたい。

## 課題研究

## 課題1 著作権の動向2

22日(土) 15:45~17:45 (303教室)

コーディネータ：坂井知志（常磐大学）、井上 透（国立諫早青少年自然の家）

教育機関で扱う各種情報の共有、公開を考えた場合、学生・生徒の氏名、メールアドレスや電話番号などの連絡網、写真、学習成果物等はプライバシー、個人情報保護の視点から慎重に取り扱わなければならない。さらに、著作権・肖像権保護をコンプライアンスの観点から取り扱うことは重要な課題である。本セッションでは、文化の継承とそれを担う人材の育成を考える観点から、教育に関する情報の共有化や利用をいかに考えるべきかを教育実践事例をもとに議論し、今後の教育情報の活用の方向性について考える。

## 1 K 1 戦跡資料のデジタル・アーカイブと著作権処理

坂井知志（常磐大学）

## 1 K 2 メディア機器の開発と著作権等の処理について

工藤典人（常磐大学情報メディアセンター）

## 1 K 3 国際科学プロジェクトによる分散型データベースの著作権処理と活用

井上透（国立諫早青少年自然の家）、松浦啓一（国立科学博物館）、福田知子（国立科学博物館）

## 課題2 学習支援環境（e-learning, blended学習）

22日(土) 15:45~17:45 (301教室)

コーディネータ：木下昭一（聖徳大学）、宮田 仁（滋賀大学）

情報化の進展に伴ってさまざまな教育手法が生み出される中でデジタル化された教材、またそれらをネットワークに乗せての配信、またさらにグループウェア、SNSの手法を取り入れた多面的な教育活動が繰り返されている。従来の方法を振り返り、あるいは組み合わせるなど、個性的で魅力的な実践を互いに紹介しあう機会を作ると同時に、真に学習者が伸びるための将来の展望を切り開きたいと思う。

## 2 K 1 携帯電話とGPSロガーを活用した草花DB付き草花同定・観察マップ作成支援システムの開発と試行

宮田仁（滋賀大学）、石上三雄（滋賀大学）、三宮真智子（大阪大学）

## 2 K 2 知識創造型ユビキタスな学びを実現するブレンディッド・ラーニングの実践

神月紀輔（滋賀大学）、宮田仁（滋賀大学）

## 2 K 3 コミュニケーション能力育成のための研修モデルの開発・評価—研修用教材(オンデマンド)の開発—

赤松辰彦（株式会社ASK Asset Consulting）、林徳治（立命館大学）

## 2 K 4 コミュニケーション能力育成のための研修モデルの開発・評価—参画型の教員研修を通して—

林徳治（立命館大学）、黒川マキ（大阪学院大学）

## 2 K 5 LMS「MOMOTARO」に対するリバースエンジニアリング

井上紀明（岡山理科大学大学院）

## 2 K 6 サイバーキャンパスにおける学習履歴データの分析

小池崇（岡山理科大学大学院）

## 2 K 7 さまざまな機能を融合したWeb上の学習支援環境—その実践と吟味—

木下昭一（聖徳大学）

### 課題3 学生参画型授業開発

22日(土) 15:45~17:45 (304教室)

コーディネータ：木野 茂（立命館大学）、本郷 健（大妻女子大学）

大学における学生参画型授業としては、1990年頃にアメリカで始まった協同（共同）学習をはじめ、グループ学習、学生参加型授業、双方向型授業、さらには学生発案型授業などの開発・実践例がある。最近ではアクティブ・ラーニングとも総称され、高等教育における学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法として注目されている。このセッションでは、新たな試みの実践報告も受けながら、学生参画型授業の今後の展望について考えたい。

- 3 K 1 チーム学習を用いた学習者中心の学習環境のデザイン  
長尾尚（大阪信愛女学院短期大学）、市川隆司（大阪信愛女学院短期大学）
- 3 K 2 グループワークによる道徳的判断力を高める授業の考察  
林泰子（滋賀短期大学）、林徳治（立命館大学）
- 3 K 3 生徒の自律協調を目標としたチーム学習の高等学校での実践  
松本宗久（大阪学院大学高等学校）
- 3 K 4 学生参画型授業モデルの開発に関する実証研究(2)  
藤本光司（山口大学大学院）、林徳治（立命館大学）、沖裕貴（立命館大学）
- 3 K 5 数学教育における生徒参画型授業モデルの開発と実証  
北村光一（山口大学大学院）、林徳治（立命館大学）
- 3 K 6 授業相互評価システムを利用した教育実習指導の試み  
本郷健（大妻女子大学）

### 課題4 革新的な初等・中等教育の実践

22日(土) 15:45~17:45 (308教室)

コーディネータ：陰山英男（立命館大学）、堀口秀嗣（常磐大学）

立命館小学校を中心として、脳の力を最大限に引き上げることを中核とする学力の向上、ならびに人間力の向上を研究のテーマとしている。一連の研究の中で、生活習慣を早寝早起き朝ごはんに代表されるような人間本来の姿に戻すことによって、学力の向上が見られることが確認できた。また、読み書き計算の高速の反復学習によって、短期間に知能指数が向上するなど、学力向上に加速度をつける方法を確立できた。現在は、これらをICTを使ったものに移植したり、得られた高い学習能力を応用的な学習にどう活用できるかを課題としている。

- 4 K 1 協同学習が変える学びのかたち－神戸大学附属住吉中学校の実践を通して－  
高木浩志（神戸大学附属中等教育学校）
- 4 K 2 多治見市の脳トレ学習における幼・保・小・中一貫教育の取り組み  
坂田俊広（多治見市教育委員会教育研究所）
- 4 K 3 外部力を活用した学校改革～児童・教職員・保護者・地域の笑顔が輝く学校づくり～  
曾根節子（港区立青山小学校）
- 4 K 4 不登校ゼロで学力向上  
田中滋子（元加古川市立平岡中学校）
- 4 K 5 睡眠ログによる生活リズム向上プログラムYM式の有効な活用について  
山下信之（京都府八幡市教育委員会）
- 4 K 6 タブレットPCを活用した漢字前倒し学習  
山根僚介（尾道市立御調西小学校）

- 4 K 7 視覚特性（オクリュージョン効果）を利用した教育への試み  
吉井直子（奈良女子大学大学院）

## 課題5 教員評価

22日(土) 15:45～17:45 (307教室)

コーディネータ：安岡高志（立命館大学）、若山皖一郎（十文字大学）

日本の高等教育（初等中等教育も同じであるが）における次の改革は教員評価である。厄介なことに、教員評価を行えば、教員が勝手に働くようになると思っている方々が多いことである。もしそうであれば、学生に成績を付ければ、学生は皆勉強するはずである。

教員が気持ちよく働けるのは個人評価か、組織評価か。管理者（評価者、経営者）の立場から、評価を受ける立場から、教育効果が期待できる評価の在り方について、多数の提案を期待している。

- 5 K 1 大学における教員、学生と管理者の総合的評価について～教員の自己評価と学生、管理者による評価～  
谷里佐（岐阜女子大学）、後藤忠彦（岐阜女子大学）、杉山博文（岐阜女子大学）
- 5 K 2 教員評価－大学教員の職務に関連して  
阿部和厚（北海道医療大学）
- 5 K 3 教員評価とFDとの接点を目指して～岡山大学の実践を通して～  
橋本勝（岡山大学）
- 5 K 4 教員評価制度の運用と展開  
宮内ミナミ（産業能率大学）
- 5 K 5 教員評価 一 個人評価と組織評価 一  
安岡高志（立命館大学）

## 課題6 教員評価と学校評価（初等・中等）

23日(日) 10:00～12:00 (307教室)

コーディネータ：横田 学（京都市立芸術大学）、北川敬一（大阪府立高槻北高校）

教員に求められる資質能力は、教科等の専門性に加え、組織変容に寄与できる組織力など多様である。また、学校評価は学校の教育力を高めることを目的とし、そのためには教員の資質向上が不可欠である。近年、教員評価や学校評価は、多くの学校で実施されているが、それらが本当に「子どもたちのよりよい成長」に繋がっているのだろうか。本セッションでは、何をどの様に評価するのか、さらに、教員に求められる資質能力とは何か、今一度原点に戻り議論を深めたい。

- 6 K 1 A県における教員評価の現状と課題  
玉野井敬治（西宮市立瓦木中学校）
- 6 K 2 学校で「評価する・評価される」ことに関する考察  
北川敬一（大阪府立高槻北高等学校）
- 6 K 3 コミュニケーション能力の育成を図る教員養成課程での授業実践  
谷口由美子（京都市立芸術大学）
- 6 K 4 中学校における教員の育成をめざした評価のあり方の現状と課題  
棚窪哲司（尼崎市立小田南中学校）
- 6 K 5 教職員人事考課の校長面接における自己申告シートの提案と試行  
武田正則（山形県立東根工業高校）
- 6 K 6 教員の資質向上を図る教員養成課程における授業実践  
一 コミュニケーション能力を育成する授業モデル 一  
横田学（京都市立芸術大学）

## 課題7 デジタル・アーカイブ

23日(日) 10:00~12:00 (301教室)

コーディネータ：三宅茜巳（岐阜女子大学）、久世 均（岐阜女子大学）

情報社会の進展に伴い、デジタル・アーカイブの対象は、博物館や美術館等の文化財を中心とされてきた時代から、地域に関わる文化活動・行政や企業等の資料・管理・公開へと新しい展開が行われてきた。このセッションでは、このようなデジタル・アーカイブの活用に関わる問題点やデジタル・アーキビストの養成に関する課題を議論し、今後のデジタル・アーカイブの展開についての方向性を考える。

- 7 K 1 学芸員課程におけるコンピュータ利活用教育—デジタル・アーキビスト養成に向けての試み—  
皆川雅章（札幌学院大学）、鶴丸俊明（札幌学院大学）、臼杵勲（札幌学院大学）
- 7 K 2 社会人のためのデジタル・アーキビスト教育プログラムの実践報告  
三宅茜巳（岐阜女子大学）、加藤真由美（NPO 法人地域資料情報化コンソーシアム）
- 7 K 3 デジタル・アーキビストのコアカリキュラム  
橋詰恵雄（岐阜女子大学）、三宅茜巳（岐阜女子大学）、久世均（岐阜女子大学）、  
谷里佐（岐阜女子大学）、林知代（岐阜女子大学）、佐藤正明（岐阜女子大学）、  
後藤忠彦（岐阜女子大学）
- 7 K 4 小学校体育・器械運動における児童の学習支援方法に関する教材開発  
松本香奈（岐阜女子大学）、久世均（岐阜女子大学）、  
内藤譲（岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター）、  
川口純子（岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター）、上出武則（高山市教育委員会）
- 7 K 5 小中学校における伝統文化教材作成の視点と教材作成  
齋藤陽子（岐阜女子大学）、久世均（岐阜女子大学）、長尾順子（沖縄県教育庁）、  
宮里祐光（沖縄教育カレッジ）、松本香奈（岐阜女子大学）
- 7 K 6 歴史研究のためのデジタル・アーカイブズの作成について  
林知代（岐阜女子大学）、村瀬千鶴（岐阜女子大学）、三浦由子（岐阜女子大学）、  
小林沙織（岐阜女子大学）
- 7 K 7 小学校理科における児童の実験支援方法に関する研究開発  
久世均（岐阜女子大学）、齋藤陽子（岐阜女子大学）、田代学（岐阜県先端科学技術体験センター）、  
日比野安平（岐阜県先端技術体験センター）

## 課題8 教員免許更新制

23日(日) 13:40~15:40 (301教室)

コーディネータ：服部 晃（岐阜女子大学）、佐藤正明（岐阜女子大学）

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入され、①平成21年4月1日以降に授与される教員免許状に10年間の有効期限が付されること、②10年ごとに（平成21年3月31日以前に教員免許状を取得した者にも）2年間で30時間以上の免許更新講習の受講・修了が必要となること、となった。国および教員の任命権者である教育委員会、教職課程認定大学等や各学校に勤務する教員の取組等、教員免許更新制をめぐる諸課題について、それぞれの立場による事例研究をもとに議論する。

- 8 K 1 教員免許更新制と指導改善研修  
服部晃（岐阜女子大学）
- 8 K 2 教員免許状更新講習の講習内容についての一考察～ワークショップから見てきたもの～  
奥野雅和（京都文教高等学校）



8 K 3 教員免許状更新講習の現状と課題 —岐阜女子大学の取組について—

森瀬一幸 (岐阜女子大学)、服部晃 (岐阜女子大学)

8 K 4 岐阜女子大学における教員免許状更新講習の取り組み

佐藤正明 (岐阜女子大学)、服部晃 (岐阜女子大学)、森瀬一幸 (岐阜女子大学)

## 課題9 特別支援教育 (1、2)

23日(日) 13:40~15:40 (307教室)

15:45~17:30 (307教室)

コーディネータ：太田容次 (国立特別支援教育研究所)、  
高市幸造 (愛媛大学教育学部附属特別支援学校)

本課題研究では、その背景として、障害の重度・重複化や多様化、学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD) 等の幼児児童生徒への対応や、早期からの教育的対応に関する要望の高まり、卒業後の進路の多様化、ノーマライゼーションの理念の浸透などが見られる。こうした状況を背景として、学習指導要領で示されているように、特別な教育的ニーズのある子どもへの情報教育の充実、コンピュータ等の教材・教具の活用や、教員や学校のICT化を進めるため等の教育情報について情報交換したい。

### <課題研究9-1: 特別支援教育(1)>

91 K 1 大学附属特別支援学校におけるネットワークを活用した教育学部学生支援への取組

高市幸造 (愛媛大学教育学部附属特別支援学校)

91 K 2 知的障害特別支援学校における児童生徒の携帯電話利用の実態と教員の意識に関する一考察

中野美佳 (香川県立香川中部養護学校)、藤田美佐緒 (香川県立香川丸亀養護学校)、  
高市幸造 (愛媛大学教育学部附属特別支援学校)、石部和人 (滋賀大学教育学部附属特別支援学校)、  
鳥田勝浩 (石川県立明和養護学校)、太田容次 (国立特別支援教育総合研究所)

91 K 3 携帯電話Webサイトによる移行支援の効果—TRUSTIAによる発話データの分析—

大杉成喜 (滋賀大学教育学部附属特別支援学校)、石部和人 (滋賀大学教育学部附属特別支援学校)、  
木村政秀 (滋賀大学教育学部附属特別支援学校)、三川綱一 (滋賀大学教育学部附属特別支援学校)

91 K 4 特別支援学校における学習ソフト活用に関する研究

金森克浩 (国立特別支援教育総合研究所)

### <課題研究9-2: 特別支援教育(2)>

92 K 1 特別支援教育の充実のための情報普及に関する実際研究(1)

—発達障害教育情報センターの取り組みから—

梅田真理 (国立特別支援教育総合研究所)、太田容次 (国立特別支援教育総合研究所)、  
伊藤由美 (国立特別支援教育総合研究所)

92 K 2 PICシンボルを用いたLLブック制作の試み

横場政晴 (大阪府立茨木支援学校)

92 K 3 自閉的傾向をとともなう知的障害児へのコミュニケーション指導に関する一考察

—絵カード教材とパソコン教材における教育効果の比較—

川村弘之 (京都教育大学大学院)

92 K 4 特別支援教育の充実のための情報普及に関する実際研究(2)

—発達障害教育情報センターの取り組みから—

太田容次 (国立特別支援教育総合研究所)、梅田真理 (国立特別支援教育総合研究所)、  
伊藤由美 (国立特別支援教育総合研究所)

## 参加申し込み

### 参加申込み締切：2009年8月7日（金）

事務局メール（[fd71cer@st.ritsumeimei.ac.jp](mailto:fd71cer@st.ritsumeimei.ac.jp)）宛てに、件名を「教育GP中間報告会参加申込み」とし、①氏名、②所属、③職名、④電話番号・メールアドレス、⑤当日用論文集購入の有無、⑥懇親会参加の有無を記載の上、お送り下さい。

なお、各費用は以下の通りです。お支払いは、当日受付にて現金でお願い致します。

参加費 4,000円      論文集 3,500円      懇親会費 5,000円

※論文集は、年会当日受付にてお渡しいたします

#### ◎共催、協賛、後援関係の方

立命館大学（付属校含む）、全国私立大学FD連携フォーラム（付属校含む）、関西地区FD連絡協議会、大学コンソーシアム京都、京都府教育委員会、京都市教育委員会にご所属の方の参加費は無料とします。

（※論文集代、懇親会費は申し受けます）

#### ◎論文集の郵送申込について（年会に参加されない方）

年会に参加されないで論文集を購入希望の方は、メールにその旨を記入の上、事務局宛（[fd71cer@st.ritsumeimei.ac.jp](mailto:fd71cer@st.ritsumeimei.ac.jp)）に申込をしてください。年会終了後論文集を送付いたします。

・論文集 4,000円（郵送費、事務諸経費を含む）

## その他

宿泊に関しましては、各自で手配いただきますようお願い申し上げます。夏休み中は京都市内のホテルは混み合うことが予想されますので、早目の手配をお奨めします。